



片柳中学校だより

片柳

第10号 令和6年1月9日発行
さいたま市立片柳中学校
さいたま市見沼区大字御蔵551
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

片柳地区の未来

校長 加藤 明良

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

歳をとると、時間が経つのが早いと感じるようになってよく言われますが、まさに今年も年末年始があつという間に過ぎてしまった感があります。子どもころ、両親の実家に行き、餅つきや年越しそば作り、親戚一同何家族もが集り、老若男女大勢の人たちと楽しく過ごした日々が思い出されます。みなさんの家庭はどうだったでしょうか。

一方、元日に能登半島地震が発生し、石川県をはじめ北陸地方では甚大な被害が出ています。お正月に被災する事態となり胸が痛むとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。またその最中に飛行機事故も発生し、日頃からの災害や事故への備えの大切さを痛感したところです。

さて、先月「10年後住みたいと思える片柳地区にするためにできることを考えよう」というテーマで3年生が社会科の探究学習に取り組みました。片柳地区まちづくり協議会事務局の高井龍太郎さんをゲストティチャーとしてお招きし、協議会が作成したパンフレットをもとに片柳地区の歴史や地理など様々な点について語っていただきました。その後、グループごとに地域の課題や魅力を高めるための方法について具体的に提案し発表会を実施しました。例えば、子育て支援の充実、環境の改善や防犯のために街灯や歩道の整備、防犯カメラの設置、空き家セミナーで有効活用、見沼田んぼを活かすための田んぼアート、農業の魅力発信、交通の便の悪さを解消するLRT(ライトレールランジツト)を大宮駅から市立病院まで敷設など、生徒たちは様々な具体的提案を発表してくれました。発表会では、高井さんの他に学校運営協議会委員長の三浦達雄さん、社会福祉協議会の下田三郎さんも授業に参加され、生徒たちに温かいコメントをいただきました。授業後の生徒の感想を紹介します。

「片柳地区での問題点には共通するところがあり、解決方法も様々で勉強になりました。また、今までぼんやりとしか感じていなかった自分たちが生活している中での不便なことや課題がはっきりと見えるきっかけとなりました。あまり自分の住む地区を考えることはなかったけど、自分の故郷の将来を考えていくべきなんだと改めて感じることができました。緑が多かったり、まだ発展したりする可能性のある片柳地区を大切にしていきたいと思いました。」

同じような感想は多くの生徒たちからもあがり、少しでも自分たちの街を自分たちでよくしていくという地方自治の考えを実感できたのではないかと思います。あらためてご参加くださった方々に感謝と御礼を申し上げるとともに、地域行事への生徒たちのボランティア参加についてもよろしくお願いいたします。

ところで、さいたま市は全国的にみても人口増加が続いている珍しい地域です。しかし、同じさいたま市内でも場所によって大きな差があり、片柳地区はあと数年後にはさらなる人口減と高齢化が予想されています。これらの社会的な課題を中学生の視点で自分事として意識しながら解決方法を探っていくことはとても大切だと考えます。2月の学校運営協議会では、生徒会や専門委員会委員長も参加し、地域の方々との意見交換を予定しています。日頃から自分の住む地域の環境や課題に目をむけながら、自分は何ができるのか考えてほしいと思います。